



志津南 news

志津南ホームページ
http://shizu373.net

志津南学区の人口 (2/7 現在)
世帯数 2,235 総人口 6,183 人
発行
志津南学区まちづくり協議会
Tel(fax) 077-507-6496
E-mail shizuminamimachi@gmail.com

立命館大学

「出あいプロジェクト」

～子育て支援～

今回わたしは、出あいプロジェクトの子育て支援に参加させていただきました。子供が好きで、さらに自分が今通っている大学のすぐ隣の志津南学区の方々と交流できるということで、参加することを決めました。



子育てを通じて感じる大切で、支援を感じた積極的行動が大切です。

活動の過程で、戸惑っているお子さんと親御さんがいれば話しかけてお手伝いしてあげたり、自分から誘って一緒に片付けやお掃除をしたりすることで、楽しくスムーズに活動に取り組むことができました。また、自分の仕事を見つめる際には、全体をしっかり見渡すことが大事だと主催者の方々を見ていて思いました。

初めての参加で少し緊張していましたが、志津南学区の方々が暖かく迎えてくださったおかげで大変楽しく充実した時間を過ごすことができました。今回の経験はまた次のボランティア活動に生かしていきたいと思えます。本当にありがとうございました。

(経済学部経済学科3回生 手古若那) (おわり)

この4月1日から、指定管理者としてまちづくり協議会がまちづくりセンターを管理運営することになります。



指定管理者とは、地方自治体から委託された事業者が、指定された施設やサービスを管理運営することになります。

治法第244条の2の規定に基づき、公の施設の管理を行わせるために市が指定した者のことである。

まちづくりセンター4月1日発足 まちづくり協議会が管理運営

ます。諸証明については、コンビニで交付を受けることができます。詳しくは2月15日号をご覧ください。貸し館の利用については、

奈良市から視察研修

2月9日、志津南学区まちづくり協議会(中原勝一会長)を、奈良市からの視察研修団が訪れました。

奈良市では、これからまちづくり協議会を立ち上げようという動きがあり、先進地研修の訪問先として、

夜間の開始時刻が30分繰り下がり、使用料が安くなるなど一部に変更があります。が、ほとんど今までと同じように利用していただけです。

草津市および志津南学区まちづくり協議会を選定したものです。

先方からは5人の自治連合会長と、奈良市地域活動推進課の職員1人の、計6人がみえました。



原会長および妹尾事務局長が対応しました。お互いに挨拶を交わしたあと、まず草津市としてのこれまでの取り組みと今後

の課題についての説明がありました。次に、当協議会のこれまでの経緯と現状のすがたを会長が説明しました。

そのあと質疑応答になり、皆さんから大変活発な意見が出されました。特に、当協議会が、自治連合会を解散してから発足したというところが興味を引いたようでした。予定時間を超過するほど熱心な質疑応答があり、まだまだ聞きたいことがあるという感じを残して、帰って行かれました。

ヒアリングで活発な意見交換

まちづくり協議会(中原勝一会長)の理事会では、昨年の10月から12月までの3回にわたり、各種団体のヒアリングを実施しました。

これは、各種団体の活動内容について説明を受け、活動の活性化に向けて建設的な意見を引き出すという行なったものです。

14の各種団体のうち、まちづくり協議会で活動費を予算化している11団体が今回の対象でした。

10月は環境美化委員会・老人クラブ連合会・地域協会の課題についての説明がありました。

趣味悠々



戸塚刺繍「山水」掛軸 縦 83センチ 横 40センチ
 制作 池田久代さん 若草6丁目

ひとこと 戸塚刺繍と出会って半世紀近くになります。この作品は四十年前前に一部刺していてそのままになっていた物を一昨年思い出し完成させました。四十年前とは思えないぐらいの布や糸の光沢に驚き仕上げなければとがんばりました。以前はなかった糸の種類や新しい刺繍技法なども取り入れてみました。

まち協 5周年 安心して暮らせる町へ

平成24年4月1日に、以前の自治連合会を解散してまちづくり協議会が発足してから、この3月末で5年が経ちます。

当初は、若草一〜八丁目町内会および岡本町西町内会の9町内会の区域で志津南「地区」まちづくり協議会と称していました。

平成25年度に、追分南地区のかがやきの丘町内会・コージーカーテン自治会・追分鴨田町内会と協議を重ね、平成26年度からこの3町内会・自治会が加わって、

志津南「学区」まちづくり協議会となりました。そして平成27年度からは追分南町内会も加わり、名実共に「学区」まちづくり協議会になりました。

この平成28年度には、市民センターを機能転換したまちづくりセンターの管理運営のための指定管理者として指定を受けることについての手続きが進められ、4月1日から実施されることになっていきます。

平成29年度は、これまでの活動を総括した上で活動内

容の見直しを進め、住民の皆さんが安心して暮らせる町をさらに目指していくことが期待されています。

幅広い年齢層が楽しむ



体育振興委員会(仮家稔委員長)主催の第1回志津南学区ボウリング大会が2月19日ACT草津エースレ

ーンで開催されました。ボウリング大会はこれまで若草・岡本西地区で開催していましたが、今年度から学区事業として実施することになりました。

小学生23人、一般女性30人、一般男性34人の計87人の参加を得て、仮家委員長の開会のあいさつの後、競

技がスタートしました。小学生は小さい体で重いボールを力一杯投げ、ストライクやスペアが出ると「やったー」と大きな歓声を上げ、仲間とハイタッチをして喜びを表していました。

一般女性は若いお母さんから高齢の女性まで年齢の幅広い参加でした。しなやかに丁寧なボールを投げストライクが出ると嬉しそうに笑みを浮かべ、ガーターから学年事業として実施することになりまして。

一般女性は若いお母さんから高齢の女性まで年齢の幅広い参加でした。しなやかに丁寧なボールを投げストライクが出ると嬉しそうに笑みを浮かべ、ガーターから学年事業として実施することになりまして。

トライクが出ると子供たちが尊敬の眼差しで歓声を上げていました。また、高齢の男性は昔の経験から美しい打球フォームでストライク、スペアを淡々と重ねていました。

グルメサロン、和気あいあい



追分南町内会(高岡昭義会長)の「元氣くらぶ」は2月24日11時30分から追分

会場には小さいお子さん、ご家族の方が応援に来られており、選手と共に歓声を上げて楽しんでる姿が見受けられ、幅広い年齢層の人たちが一堂に集った有意義な大会でした。

南会館でグルメサロンを開催しました。当日は29人が参加し、みんなでのお好み焼きを焼いて美味しく頂きました。グルメサロンも今回で3回目を迎え、全員で和気あいあいと楽しいひと時を過ごし、次回のグルメサロンは何を作ろうかとそれぞれ思いを馳せていました。

長寿祝い高齢者訪問



社会福祉協議会(上田恒章会長)と民生委員児童委員協議会(垣根和子会長)が共催し、85歳以上の方々

88人の長寿を祝い、高齢者友愛訪問を実施しました。日頃はお体を労わりながらもお元気にグラウンドゴルフなどスポーツに参加されたり、お一人暮らしだったり、多彩な趣味を楽しまれたり、ご自宅で療養中だったりの皆さま方です。梅の香りがど

こからともなく漂ってきて、自然のゆかしさを感じる季節、皆様のお宅を、民生委員のメンバーがささやかなプレゼントを携えて友愛訪問しました。

そして安全確認、安否確認にもつながりました。お話しも弾み、笑顔も生まれました。何よりも訪問を喜んでいただけ心が温まる気持ちになりました。いつもでもお幸せにと願わずにはいられません。そして何より地域で安心して暮らし続けていくためにも、日頃から近所同士の挨拶や声かけの積み重ねが大切です。お互いに助け合いの気持ちを、そして優しい地域力を強めていきたいものです。

笑顔いっぱい、昔遊び



志津南小学校(葛本茂樹校長)では、1月31日の2時間目に地域の方をお招きして一年生の子どもたちが「昔遊び」を楽しみました。

この日は、25人も地域の方にお越しいただき、昔から伝わる遊びとして、こま、おはじき、お手玉、けん玉、折り紙

ごまなどを教えていただきました。子ども達は、慣れない遊びながらも、地域の方に一人ひとりが声をかけてもらい、優しく教えていただくことで、あちこちでたくさんの笑顔が溢れる時間となりました。

子ども達の感想からは、「昔遊びがこんなにたのしいとは思いませんでした」「こまをうまく回す回し方を教えてくれてありがとう」「できたらほめてくれてうれし

かったです」など、楽しかった様子が生き生きと伝わってきました。

また、参加して下さった地域の方からは、「一生懸命話を聞いてくれて、嬉しかったです」「挨拶がしっかりできますね」「毎年、私も活動を楽しみにしているのですよ」など、嬉しいお言葉もいただくことができました。

学校と地域、子どもと大人が共に学ぶことができた貴重な時間となりました。



<12>

薬の字が入った諺(ことわざ)は昔から数多く伝えられています。

中でも「良薬口に苦(にが)し」、「酒は百薬の長」が有名ですが、前者には続きが「忠言耳に逆らう」(忠言は聞いて快いものではないが、身のためになる)を付けて完成します。後者には真逆の諺「酒は命を削る匏(かんぼ)があります。また「二階から目薬」というのは、物事がうまく行

かずもどかしい様ですが、「天井から目薬」になると効果がない状況を表します。さらに「自家薬籠中のもの」。これは人、物、知識や技術が身に付いて随時思いう通り自在に使いこなせることで、昔の人は薬を上手に使っていたことが伺われます。

薬と諺・名言

「効能書きの読めぬところに効能あり」というのもあります。これは薬の効能書きは難解なほど効き目がある、の意が転じて、物事はよく分からない方がお経のように有難味があるという皮肉です。よく使われる「手薬練(てぐすね)」を引いて

「効能書きの読めぬところに効能あり」というのもあります。これは薬の効能書きは難解なほど効き目がある、の意が転じて、物事はよく分からない方がお経のように有難味があるという皮肉です。よく使われる「手薬練(てぐすね)」を引いて



待つ」の薬練は松脂(まつやに)のことで、それを手に塗って(引いて)滑り止めとし、相手(敵)が来るのを準備万端整えて待ち構

け紹介します。「薬が調合される時そこに毒が入るように、徳が組み合わされる時そこに不徳が入る。知恵は徳と不徳をうまく調合し、人生の不幸に對して役に立てる」。

一方、薬にまつわる金言も多数ありますが、一つだけ

一年間にわたって連載しました京都薬大名誉教授

だまされないで!



はない、違う人物を語る詐欺はオレオレ詐欺の一種であり、草津市でも多くの被害が出ています。

志津南市民センター(公民館)では、2月22日第9回志津南やすらぎ学級「狙われる高齢者」今、旬な詐欺商法」を公開講座として開催し、32人が参加しました。講師には滋賀県消費生活コンサルタント協会の皆さん4人をお迎えしました。

講演は寸劇形式で、突然警察から電話がくと題し、講師扮する「だまされやす子さんや、偽の「警察」銀行協会」が登場し、「あなたの知らないうちに偽のカードが作られている。このままでは口座が凍結される」などと、巧みな文句で、カードの暗証番号を聞き出し、その後、連絡が途絶えてしまふという設定でした。これは2月に県内で実際にあった詐欺被害です。本人で

を上手く利用することで回避できるということでした。また、一旦購入してしまっても、訪問販売や電話による勧誘等不意打ち性のある契約に対しては「クーリングオフ制度」が使えるので、すぐに消費生活センターに相談してくださいとのことでした。この他にも「健康食品」や「リフォーム」などの詐欺もあり、「リフォーム」に関しては特に男性が騙されやすいということでした。

お点前に心温まる



寒中の2月2日、かがやきの丘地域サロンなごみ会

をお招いてお茶会を開催しました。写真。まち協の協力者ら15人が参加、美しいお点前を拝見し、みんなでお点前をいただきながら点ててくださった濃茶を順番に楽しみました。

その後、お点前の作法をお聞きして、隣同士でお茶を交互に点てておいしくいただきました。

外の寒さを忘れ、心とお腹が温まる2時間でした。

「絆」に志津地区社協



い活動について、ふれあいハウス「絆」の視察研修に在所しました
写真。

ます2階で、誰もが安心して暮らし続けられるまちづくりを目指し、地域支え合いや居場所づくりの拠点として立ち上げた経緯や、運営状況等を上田会長がプロジェクターを使い紹介しました。

草津市志津地区社会福祉協議会(宇野敬造会長)から会長他福祉委員17人が2月1日、社会福祉協議会(上田恒章会長)の地域支え合



莫でもてなし、送迎支援安心のパトンの推進普及方法、福祉委員の増員と関わりかたなど、「やはり関わる人が一番大事なことだが、どんな方法で協力者を募ったのか」等々質問が飛び交

鈴鹿市若松社協も

い、「益々高齢化の進む中、助け合いの必要な拠り所としての居場所づくりの充実を目指しお互いに頑張りましょう」とエールを交わし、時間の過ぎるのも忘れて和やかな懇談ができました。

鈴鹿市若松地区社会福祉協議会(西城彰男会長)は2月28日、東部地区民生委員児童委員協議会と若松地区の自治会長を中心とした36人が、ふれあいハウス「絆」の視察研修に在所しました。写真。

開中の「絆」の取組など研修し、自治会の連携の強化、柔軟な対応策を学びたいとの思いを受け入れました。当日は、草津市社会福祉協議会の職員から、草津市内における志津南学区の現状など位置づけについての説明後、2班に分かれて進

もうすぐ春だよ ひなまつり



追分南子育てサークルは2月22日、追分南会館9組の親子が紙コップおひなさまとおだいらさまを作りました。写真。「くだものなかに」の絵本を読んだり、おひなさまのうた、春のうたを歌ったり、おもちゃで遊んだり、笑顔のかわいい子ども達とすてきな時間を過ごすことが出来ました。すくすく大きくなってください。

2階では上田会長が「誰もが安心して暮らし続けられるまちづくりを」目指し、地域支え合い、居場所づく

りの拠点として立ち上げた経緯や、運営状況等、プロジェクターを使い紹介しました。1階では民児協の活動、絆との関わり方の説明の後、海岸に近い若松地区からの南海トラフ地震の危険を危惧している現状に対し当地の取り組み及び状況について、また昔ながらの伝統行事(お祭り等々)の継承についての質問を受け地域差を認め合い、当地の行事(夏祭り・左義長等々)につい

て盛大に行っていることなど説明。また福祉委員の人材確保について、民生委員との協力体制と位置づけなど、協力者を募った方法などは、やはり役員の人材確保の難しさはお互いさまと談笑で盛り上がりました。今回、研修の重点である自治会として地域活動に活かしていくためのヒントになり参考とさせていただき、まずとお礼の言葉をいただきました。

折々の記



早いものだ。娘が嫁に行つて数か月が経つ。娘を他家に嫁がせることの淋しさを痛切に感じている。親のわがままといえはそれまでである。せつかく家宝のようにして育ててきたのに嫁に行ってしまうのだから。だけど行かなければ行かないで心配だし、いざ行ってしまうとやっぱり、なんだか寂しさを感じないわけに

はいかない、そりゃ仕方がないさ、お前も家宝として育てられた娘を貰ったのだから、と自問自答している。若い二人にエールを送りたい。結婚していきなり幸せになれると思う考え方はむしろ間違っている。幸せは待っているもんじゃなくて、やっぱり自分たちで創り出すものだ。結婚することが幸せなんじゃない、新しい夫婦が新しい一つの人生を創り上げていくことに幸せがある。それでこそ初めて本当の夫婦になれると思う。そして、いずれ子どもが

花嫁のパパ

生まれるだろう、生まれてきたその孫を、うんと可愛がっている姿を夢見たいものである。これから一番楽しい時がやってくるのかも知れない。しかし、欲を言えばきりがなく、幸福とはこんなことを考える事なのかも知れない。それは束の間のことかとも知れないと意識しつつ心ゆくまで味わいつくすことではないか。娘にはよき嫁、よき妻、よき母となることを願いつつ、漢詩を味わい楽しむ。在天願作比翼鳥 在地願為連理枝 (T・S)

資源回収

- 毎月第1・3日曜日
- ★若草1〜5丁目町内会
- 毎月第2・4日曜日
- ★若草6〜8丁目町内会
- 毎月第2・4土曜日
- ★かがやきの丘町内会
- 毎月第1・3土曜日
- ★フォレストロース子供会
- 毎月第2日曜日
- ★向山子供会
- ※回収品は古新聞・古雑誌・段ボール・古着